

七尾市街地西地区

(石川県七尾市)

- 計画期間 平成25年度～平成29年度
- 面積 80ha
- 交付対象事業費 1,000百万円
- 市人口 49,660人 (地区内人口2,470人)

ポイント

歴史・文化資産を活用したまちなかのにぎわいづくり

地区概要

地域資源を活かした新たな核施設を整備することにより、集客力が向上し、観光客の滞在時間の延長や地域経済の活性化や雇用などにつながり、中心市街地の活力再生が図る。

目標

1. 歩く楽しさが体感できる「みち」の演出による交流人口の拡大
2. 「アートとのれん」が彩る商店街のにぎわいづくりによる集客力の向上
3. まちなか地域資源の魅力再発見による住民意識の向上安全で快適なまちなか空間の形成

指標

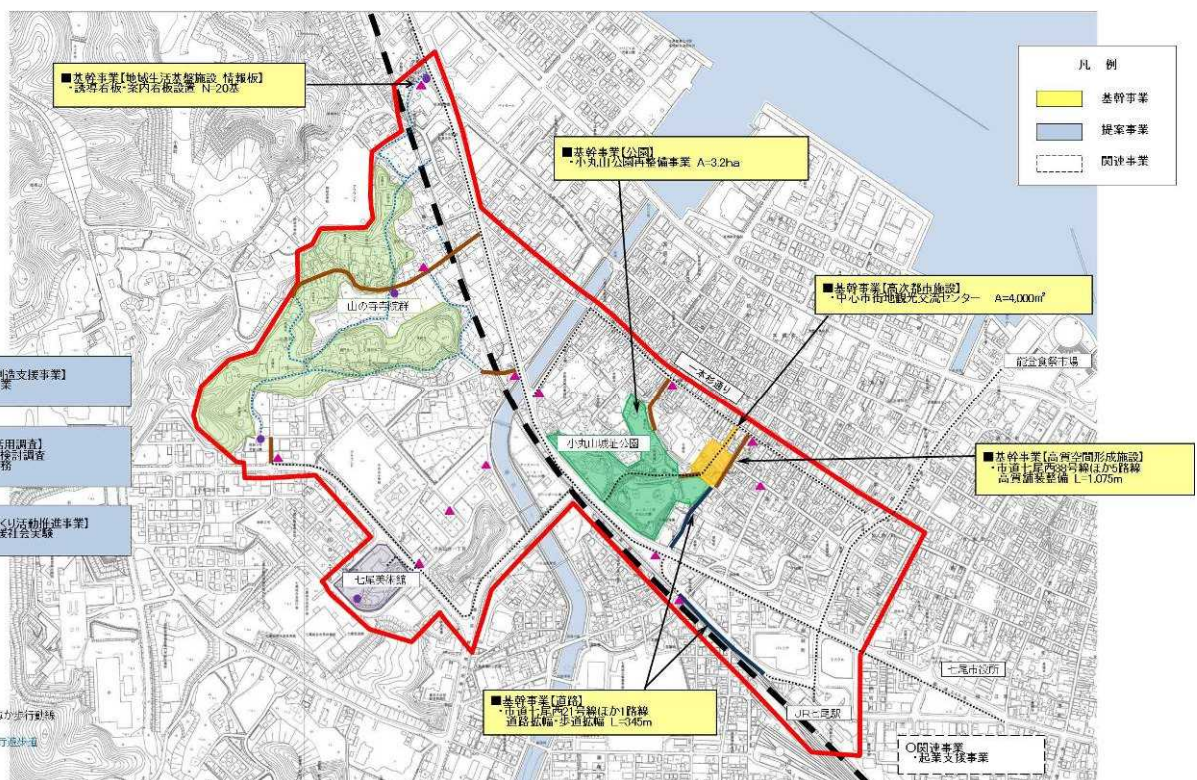
「回遊性の向上」、「商店街のにぎわい再生」という観点から、下表のとおり目標指数を設定した。

指標	単位	従前値		目標値		評価値	
			基準年		目標年		評価年
七尾美術館と山の寺寺院群の入込客数	人/年	34,836	H24	36,800	H29	43,336	H29
一本杉通り商店街の店舗数	店舗	43	H24	46	H29	49	H29
一本杉通りの観光案内対応数	人/年	6,463	H24	6,770	H29	4,041	H29

事業内容

基幹事業 (965百万円) → 道路(2路線 延長L=345m)、公園(1箇所 A=3.2ha)、地域生活基盤施設(情報板 N=20基)、高質空間形成施設(緑化施設等 6路線 延長L=965m)、高次都市施設(観光交流センター A=4,000㎡)

提案事業 (35百万円) → 小丸山公園利用検討調査、まちなか回遊支援社会実験など



地区の現況と課題

現況

七尾市の中心部に位置する七尾市街地西地区は、古くから、畠山氏の居城(中世)、前田利家の築城(桃山時代)、前田家が治める能登国の拠点(近世)など、能登国の中心地として、また、天然の良港を有することから、北前船の寄港地など海運交通の要所(港町)として発展してきたが、近年の市街地の拡大、観光客のニーズの多様化、経済や交通情勢等の変化により、中心市街地の店舗や人口が減少しており、高齢化、空洞化が進んでいる。

課題

前田利家が築いた小丸山城、これを防御するために集められた山の寺寺院群、そして桃山時代を代表する画人長谷川等伯の作品を所蔵している七尾美術館などの地域資源が豊富にあるものの点在しており、一体感が不足しているため、それらを繋げ回遊性を高める整備が必要であり、また、空き店舗や空き地が年々増加し、商店街の活力が低下している中心市街地のにぎわい再生に向けた魅力向上も必要となっている。

提案事業の特徴

まちなか回遊支援社会実験(まちづくりPR活動推進事業)

まちなかの回遊性を向上させる取り組みとして、レンタサイクル社会実験を行い、新たに整備した中心市街地観光交流センターや既存の観光施設などへの利用数や移動ルートの調査、アンケート調査を行い、実用化に向け検証を行う。

小丸山城址公園利用検討調査(事業活用調査)

小丸山城址公園の利用実態について、地元住民や利用者から聞き取りアンケートを行い、利用促進に繋がる施策を実験し調査する。

計画策定プロセス

七尾市は、能登半島観光の宿泊拠点である和倉温泉があり、多くの観光客が来訪する。しかし、中心市街地では、「小丸山城址公園」「山の寺寺院群」「七尾美術館」などの観光資源があるものの点在していることから、滞在時間が短く、また地域商店での消費額が少なく、商店街は年々衰退してきた。

そうした中、平成16年より一本杉通り振興会が、幕末から明治にかけて加賀藩領内では花嫁が嫁ぎ先にのれんを持っていく風習を利用し、これらののれんを通りに掲げる「花嫁のれん展」を毎年4月下旬から5月上旬にかけて開催している。平成23年10月には、通年的に観光客を受け入れたいと、振興会が中心となって、空き家を活用した花嫁のれん常設展示場を開設し、年々、観光客や大型バスでの団体客が増えている。しかし、展示規模が小さく、受け入れ態勢が乏しいことから、地域住民より、婚礼時の場面を再現している花嫁のれんの展示、観光資源の情報発信、休憩施設などの機能を併せ持つ中心市街地観光交流センター建設の声があがった。

これを受け、地元商工会が中心となり、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業、能越自動車道七尾ICまでの開通などによる交流人口の拡大が整いつつある中、官民一体となって、この施設を核としたまちづくりが必要であると動き出した。



青柏祭(毎年5/3~5/5)



再整備した小丸山城址公園



七尾市中心市街地観光交流センター



花嫁のれん展(毎年4/29~5月第2日曜日)